



# 学校だより

7月 

令和4年6月24日  
横浜市立本宿小学校

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/honjuku/>

## 本物に触れ、本物を宿す

副校長 内田 宏



本校の学区は、横浜郊外の住宅街の中にあるにもかかわらず、往事をしのぶ自然景観と相まって様々な畑・竹林等自然とのふれあいができる場が数多くあります。それぞれの場所には人の営みがあり、子どもたちの問いに答えようとする温かさが感じられます。子どもたちは、本宿のまちの方々とかわり、まちをフィールドに学びを紡いでいます。

2年生では野菜を育てる生活科の学習がありますが、野菜を育てることだけが学びではありません。「どんな野菜を育てたいのか?」「育てたい野菜に必要な植木鉢はどうするのか?」など、野菜を育てるにあたって出てくる問題や疑問を一つ一つ取り上げ、考えていくことも学びとして学習を進めます。例えば、これまでの経験から野菜を育てるには栄養のある土が必要であることを理解している2年生は、ジャングル山(鶴ヶ峰ふれあい樹林)を管理されている前原様に連絡を取り、ジャングル山の栄養ある土をいただけないものかお願いに行きました。また、自分たちの育てたい野菜をどうやって購入したらよいのかを考える際には、フラワーショップを営んでいるPTA会長の倉本様に電話をかけ、学校での移動販売開催を実現させました。どちらの時も子どもたちは、どのようにしたら目の前にある問題を解決できるのか知恵を出し合いながら、一生懸命話し合いました。「どうしたら苗が買えるのか?」「倉本さんに、どんなふうに電話をかけたらよいのだろうか?」「どのようにお願いをしたら、私たちの考えをわかっていたいただけるだろうか?」「校長先生の許可なしに、自分たちだけで前原さんや倉本さんにお願いをしてもよいものか?」など次から次へと現れてくる問題に真剣に向き合い、仲間と共に話し合うことを通して、問題を解決していました。このように学習を進めていると、子どもにとって育てている野菜は特別なものになってくるようです。登校すると水をやり成長を確かめたり、自身の野菜の成長や大きさに合わせて支柱を用意したりするなど、自ら考え主体的に野菜にかかわる姿を見ることが出来ます。野菜を育てることが、自分事になってきているのだと思います。本校で考える「本物が宿る」とは、このような姿であると考えています。また、この姿の中に昨今の教育改革の中でうたわれている「生きる力」が宿っているのではないかと思います。追究していく課題は、子どもが自分で見つけていく。そして、子ども自身が自分の体験や活動を通して問題解決していきながら、自分なりの答えを求めていく。問題解決をしていくことで答えを求めながらも、むしろその過程で獲得していく学び方や、自分なりの考えをもてるようになることを大切にしていきたいものです。

本宿小では、この他にも学校菜園を管理されている山屋様・本宿東部自治会長の鈴木様(大池公園教育水田指導員)のお力添えをいただき、学校や地域をフィールドに栽培活動が始まっています。また、学校・ジャングル山・東部公園・第二公園をフィールドにした「本小ラリー」の実施など、子どもが本物の地域・社会から学び、子ども一人ひとりの中に本物が宿るような学習を展開していこうと努めています。変化の激しい時代にあって、現実の社会の中で子ども自らが思考・判断し、他者と協働しながら問題解決していくことは、これからの時代を生きる子どもにとって、とても大切なものになってきます。学校が地域社会の中に温かく迎え入れられ、子どもが個性を發揮しながら学ぶことのできる本宿というまちの温かさと懐の広さに改めて感謝の念をもつ日々です。今後とも、本校の教育活動へのご支援ご協力を、よろしく願いいたします。